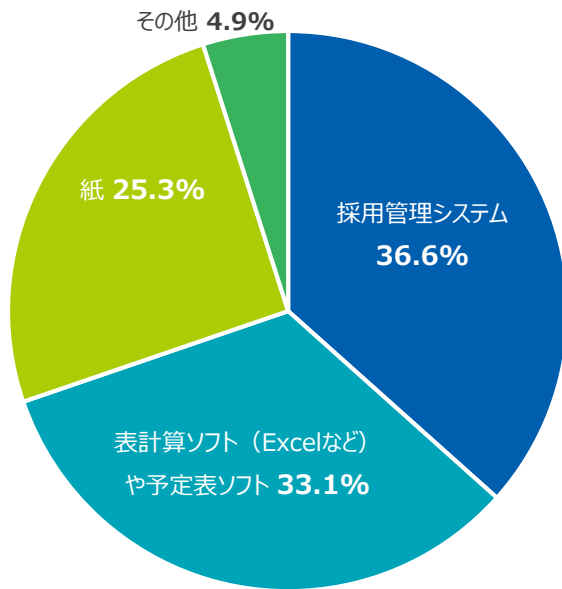


ジョブズコミュニティレポート 2021年7月号

採用管理システムの導入が進む 2018年より約6pt増加

Q ▶ 応募者の管理ツールは何を使っていますか？

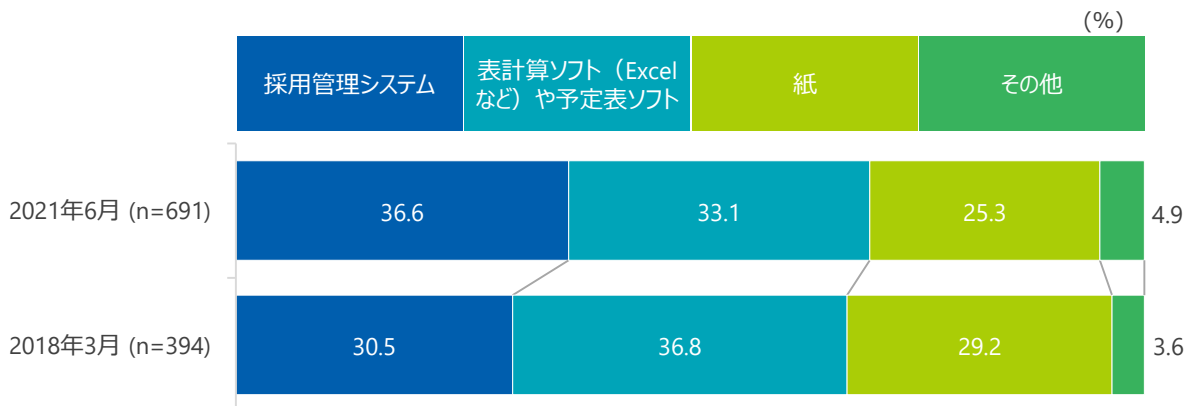


応募者管理には、紙や表計算ソフトを使うほか、採用管理システムを導入するといった方法があります。採用管理システムには、採用業務を効率化するため、応募者の一元管理をはじめ、応募者対応や面接などのタスク管理、応募効果の可視化（レポート等）といった機能を提供するものもあります。

応募者の管理ツールの利用状況について聞いてみると、「採用管理システム」が最も多く（36.6%）、次いで、「表計算ソフト（Excelなど）や予定表ソフト」（33.1%）、「紙」（25.3%）という結果になりました。

2018年3月の結果と比較すると（下図）、「採用管理システム」の割合が6.1ポイント上昇しており、システムの導入が進んでいることが分かります。なお、「紙」と「表計算ソフトや予定表ソフト」の合計は、66.0%から58.4%に減少しています。

時系列 ▶ 採用管理システムの割合が6.1pt増加、紙や表計算ソフトの合計が7.6pt減少



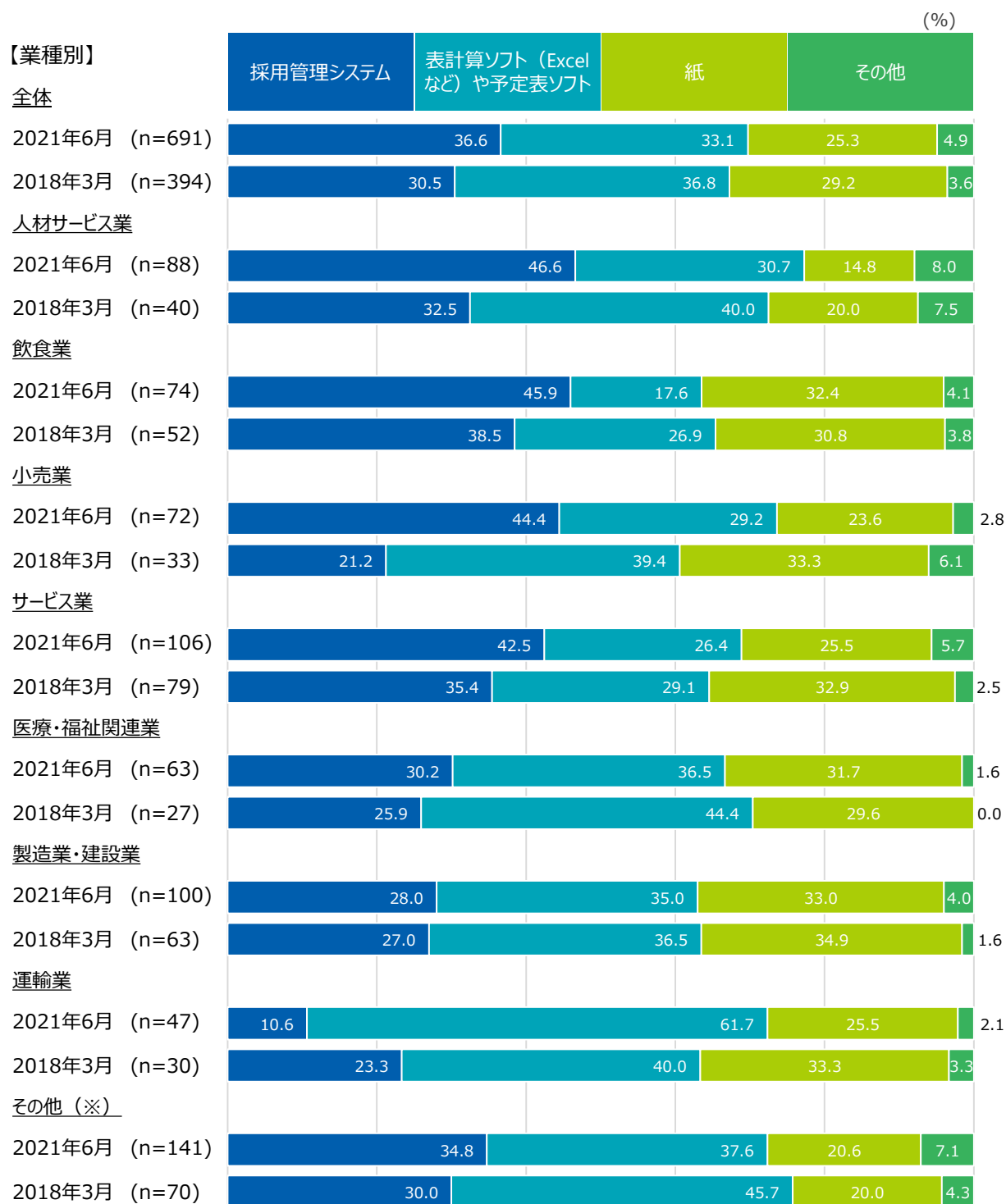
- アンケート実施期間：
2021年6月11日～6月18日
- 有効回答数：691人
- 対象：弊社メールマガジン会員

- 本レポートに関するお問い合わせ先
株式会社リクルート ジョブズリサーチセンター jbrc@r.recruit.co.jp
- その他のアンケート結果はこちらから
リクルート 求人広告ネット 人材インフォ
<https://www.jinzai-info.net/enquete/results/>

Q.応募者の管理ツールは何を使っていますか？

業種別・時系列 ▶ 人材サービス業、飲食業、小売業、サービス業で「採用管理システム」が40%超

2018年3月の調査と比べると、ほとんどの業種で「採用管理システム」の導入割合が増加しており、2021年6月の調査で40%を超えたのは人材サービス業、飲食業、小売業、サービス業でした。背景としては、例えば、採用数の多い業種の方が採用の効率化が課題となることが多く、システムの導入が進みやすい可能性が挙げられます。中でも、人材サービス業では「紙」が14.8%ととりわけ低くなっています。



※「その他」は、「その他」「情報通信業」「金融・保険・不動産業」の合計。